



国立極地研究所
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構



Arctic Challenge
for Sustainability II

ArCS II イベントシリーズ

ようこそ、**北極**へ！

トナカイが魚を食べる!?
永久凍土がつくる**環境**と**人のくらし**と**生き物たち**
- サイエンストーク -

内容：西シベリアに暮らすハンティの生業を取り上げ、極北環境への適応の特徴についてお話しします。

講師：大石 侑香（神戸大学）

会場：談話室サザンクロス（国立極地研究所 南極・北極科学館隣り）

対象：興味のある方はどなたでも（高校生以上を推奨）

定員：先着 30 名（事前申し込み制）

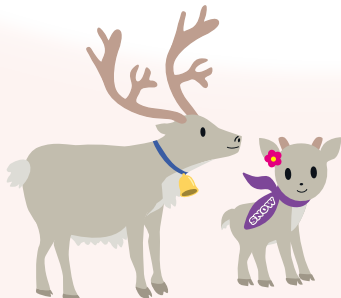
主催：国立極地研究所

2024 年

8/10(土)

14:00～15:30

参加
無料



申し込み方法

申し込みフォームよりお申込みください。
右の QR コードを読み込んでください。





▲ 魚を食べるトナカイ
(2011 年、大石撮影)

シベリアでは草食性の強いトナカイが魚を食べます。といっても、トナカイが自ら魚を捕食するわけではなく、トナカイ牧夫たちがトナカイに川や湖で捕った魚を与えて、放牧しやすくしています。

今回は、西シベリアに暮らすハンティの独特な生業（せいぎょう）活動を取り上げ、極北環境への適応のあり方や、人間と家畜との関係だけに閉じない、魚をふくめた生物たちの共生についてお話しします。



◀ トナカイ橇で凍った湖上を駆ける
(2011 年、大石撮影)

講師からのメッセージ

大石 侑香
神戸大学

トナカイと大石 ▶
(2011 年、タチヤーナ・モルダノヴァ氏撮影)



専門は文化人類学です。自然と人との相互作用に関心があり、人間が寒冷な北極の環境にいかに適応してきたか、近年の気候変動にどのように適応しているかについて研究しています。

シベリアには 40 以上の先住民が暮らしており、そのひとつである西シベリアのハンティのところに滞在し、彼らの社会・文化について調査してきました。冬にはマイナス 40℃以下が続く極寒の大地で、ハンティは狩猟採集や漁撈（ぎょうろう）、トナカイ飼育等を複合的に営んで暮らしてきました。自然と常に向き合う彼らの暮らしから、多様な自然と人との関係を学び、自然と遠く離れた我々の暮らしを批判的に考えていきたいと思います。